

SHOW HEY シネマルーム


Data

監督：松本洋
声の出演：桜庭ななみ / 田中圭 / 檜
山修之 / 松坂桃李 / 増
谷康紀 / 福井裕佳梨 /
井上麻里奈 / 緒方賢一
/ 藤田咲 / 坂本真綾

ドットハック セカイの向こうに

2012年・日本映画
配給 / アスミック・エース・111分

2012 (平成24) 年1月18日鑑賞

宣伝用DVD鑑賞

みどころ

中学2年生にもなると誰でもゲームに夢中？とりわけ「THE WORLD」は大人気だが、その架空の世界で彼らは一体ナニを？ゲームに批判的な頑固じじいまでハマってしまうのはその世界が楽しいからだが、所詮架空は架空、現実の方がもっと大切では・・・。

私はそう確信しているが、美しい画面上で展開するクライマックスの展開は、かつての『宇宙戦艦ヤマト』（77年）と同じ・・・？

「THE WORLD」とは？青春群像劇はいかに！？

1月16日に観た『逆転裁判』（12年）に続いて、全世界で2000万人以上のプレイヤーを持つというネットワークゲーム「THE WORLD」をベースとした、中学生の青春群像劇をDVDで鑑賞。大林宣彦監督の『時をかける少女』（83年）はタイムスリップをテーマとした男2人女1人の青春群像劇だった（『シネマルーム12』398頁参照）。それに対して本作は、オンラインゲームをテーマにしたゲームに無関心な中学2年生の女の子有城そらと、その幼馴染の岡野智彦、そしてクラスメイトで智彦の友人である田中翔という3人を主人公とした青春群像劇。

何事にも明るい智彦は映画の後半に到り、ずっと好意をもっていたそらに告白することになるが、どうもそらは、一見孤独で冷たそうだが何事にも論理的な翔の方に興味がありそうだ。クラスのみんなが夢中になってハマっているゲーム「THE WORLD」にそらが興味を示さないのは父親からきつく禁止されていたためだが、父親以上に頑固でゲーム嫌いなはずの祖父・有城武生の動きが最近少しヘン・・・。そんな中、翔やクラスメー

トから少しずつ「THE WORLD」の話を聞いているうち、それもその世界の入口に・・・。

架空はあくまで架空！現実の方が大切では・・・

ディー・エヌ・エー（DeNA）による「横浜ベイスターズ」の買収劇には大きな異議が出たが、結局は「カネの力」がモノを言ったようだ。電車の中でケータイをいじり、ゲームに夢中になっている若者を見て常々不快に思っている私はこの買収劇に不満があるが、現実が現実。しかし、それを除く智彦や翔たちクラスメートのほとんどがはまっているゲーム「THE WORLD」とは？おじいちゃんの武生までが「THE WORLD」をやっていると知ったそらは、ある日はじめて「THE WORLD」用のメガネをかけ、ホームサーバーロボのまことさんの助けを借りてはじめて「THE WORLD」の世界に入ったが、それによって私たちもはじめてスクリーン上で見ることができる「THE WORLD」の世界はまさに異次元の別世界。そこでは現実の世界にとらわれず、自由なキャラクターになることができるらしいが、そらが選んだのはなぜか男の子のキャラクター・カイト。そこで出会うプレイヤーキャラクターが智彦はバレルドで、翔はゴンドーだが、「THE WORLD」におけるそれぞれの奇妙な(?)キャラクターに注目！

人間は誰でも架空の世界を夢見ることがあるし、それが形となって体験することができる。楽しいだろうが、架空はあくまで架空。勉強に運動にそして読書に勤しむべき中学2年生の時代に、学校から家に帰れば毎日毎日こんなゲームで遊んでいていいの？架空はあくまで架空！現実の方がもっと大切では・・・。

美しい画面でのクライマックスに注目！

本作は最先端の3DCGでつくられたというだけあって、画面はたしかに美しい。はじめてそらが「THE WORLD」の世界に入り込んだところで出会う「THE WORLD」における「幽霊の女の子」アウラのみならず、アウラを襲う黒い影状のウィルスバグの映像も美しい。本作前半はそらと智彦、翔3人を中心とした青春群像劇だが、後半からクライマックスにかけては「THE WORLD」の世界を破壊しようとするウィルスバグと、なぜかこれと戦うべく運命づけられたそらの戦いが描かれる。そこに大きく寄与するのが、ネットワーク管理局（NBA）から派遣され、そらに接触してきた奇妙な大阪弁をしゃべる男デビッド・スタインバーグだ。

ある日「THE WORLD」のゲームに熱中していた人が死亡。そして、被害者は次々と拡大。さらにある日、翔までが倒れて入院してしまったから大変だ。このウィルスバグの犯人は一体ダレ？NBAはどんな対処をするの？また、その戦いの代表として選ばれた女の子そらは、デビッドやクラスメートの力を借りてその戦いにいかに挑むの？しかし、その戦いの行方は？そんなクライマックスには私の世代では見慣れた『宇宙戦艦ヤマト』

(77年) にも似たストーリーが美しい映像で描かれるから、それに注目！

2012 (平成24) 年1月20日記